

令和 6 (2024) 年度

教職課程

自己点検評価報告書

桐朋学園大学

令和 7 (2025) 年 6 月

目 次

I	教職課程の現況及び特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	4
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み.....	4
	基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有.....	4
	基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫.....	5
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援.....	6
	基準項目 2－1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成.....	6
	基準項目 2－2 教職へのキャリア支援.....	7
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム.....	8
	基準項目 3－1 教職課程カリキュラムの編成・実施.....	8
	基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域の連携.....	9
III	総合評価	10
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス.....	10
V	現況基礎データ一覧	11

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：桐朋学園大学
- (2) 所在地：〒182-8510 東京都調布市若葉町1丁目41番地1号（仙川キャンパス）
 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1丁目10番地1号（調布キャンパス）
- (3) 学生数及び教員数（令和6年[2024]年5月1日現在）
 学生数：教職課程履修 389 名／学部全体 561 名
 教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも、専任）37 名／大学全体 42 名
- (4) 教職課程認定の現況

大学 学部学科	教職課程種別
音楽学部 音楽学科	中学校教諭一種免許状（教科：音楽） 高等学校教諭一種免許状（教科：音楽）

大学院 研究科	教職課程種別
音楽研究科 音楽専攻	中学校教諭専修免許状（教科：音楽） 高等学校教諭専修免許状（教科：音楽）

2 特色

桐朋学園大学は、音楽学部（1学科10専攻）及び大学院音楽研究科（1専攻）を有する単科大学であり、学部では中学校教諭一種免許状（音楽）と高等学校教諭一種免許状（音楽）、大学院では中学校教諭専修免許状（音楽）と高等学校教諭専修免許状（音楽）が取得可能となっている。教職課程履修者数は、学部では全体の約6～7割、大学院では全体の約5～6割と多い。

教職課程においては教育科目運営委員会を設置し、教職課程科目の専任教員と各専攻・ソルフェージュ・一般教育授業科目の代表の専任教員を構成員とし、教職課程全般の運営についての審議や、教育実習や介護等体験にあたっての関係機関との連絡調整等を行っている。また、事務局教学グループ教務チームとの連携により、徹底した指導ができるよう工夫している。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

大学学則第 1 条において、以下の通り教育の目的及び自己点検評価の実施と公表を明記している。

- 第 1 条 本学は教育基本法 の精神に従い、広く知識を授けるとともに音楽の専門教育を与え、人格の完成を図り、有為な音楽家を育成することを目的とする。
- 2 本学は前項の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。
- 3 前項の点検及び評価に関する事項は、別に定める。

上記学則を踏まえ、教員養成の目的として、音楽教育者に求められる幅広い教養と高度の専門的能力を修得し、音楽教養をもって学校教育における多様な児童生徒に対応できる実践力を身に付けることを掲げている。

〔長所・特色〕

本学では、学部・大学院の両課程において、演奏活動と大学の学びを両立させている学生や、国内外の音楽コンクールに積極的に挑戦する学生など、在学中からトップレベルの音楽家として活躍する学生が少なくない。そのような中、教職を音楽家のセカンドキャリアの選択肢として想定し、教職課程を履修する学生が一定数いる。

〔取り組み上の課題〕

本学の学生は、前述のように国内外のコンクールに数多く挑戦しながら音楽家として活躍することに大きな目標をおくケースが多い。現在の教職課程で求められている履修科目や実習について、非常勤教員を含めて全学的に理解を深めることが重要であり、コンクールなどとの両立について学生一人ひとりに寄り添った指導が必要となっている。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・ 桐朋学園大学 履修案内 2024
- ・ 桐朋学園大学ホームページより「情報公開：教員養成の状況」
(<https://www.tohomusic.ac.jp/college/about/disclosure/kyoinyosei/>)

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

教育科目運営委員会を設置し、教職課程全般の運営についての審議や、教育実習や介護等体験にあたっての関係機関との連絡調整等を行っている。また、事務局教学グループ教務チームとの連携により、年度初めの4月には教職オリエンテーションや介護等体験・教育実習の事前指導講座などを実施し、徹底した指導が出来るよう工夫している。

〔長所・特色〕

教育科目運営委員会に各専攻の教員が1名以上在籍していることから、迅速な伝達を行うことができ、教育実習校への訪問割り振りなどをスムーズに対応出来ている。

また、学部においては、教職実践演習を履修する最終学年の学生に向けて、本法人の理事長（元桐朋女子中学・高等学校校長）が講義を行うなど、部門を超えて連携を取っている。

〔取り組み上の課題〕

学生の専攻により、必修授業との時間割重複を避けることや、カリキュラムの一貫としてのオーケストラ演奏会や成績優秀者が出演する本学主催の演奏会に推薦された際に校用欠席の扱いにする配慮など、学生が教職課程の履修を途中で諦めることのないように工夫が必要である。

また、学部在籍時に教職課程を履修せず、大学院に入ってから履修する学生が例年数名出ているため、修士課程の2年間で必要な単位が修得できるよう、学部生とは別に履修指導を行う必要が出てきている。

〈根拠となる資料・データ等〉

・ 桐朋学園大学ホームページより「情報公開：教員養成の状況」

（ <https://www.tohomusic.ac.jp/college/about/disclosure/kyoinyosei/> ）

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

教職課程の履修に関して、学部1年次では入学時のオリエンテーションにおいて教職課程に係る履修科目の具体的な授業内容、修得必要な単位数、取得可能な教員免許状の種類についての説明を行い、2年次から4年次において年度始めに教職課程オリエンテーションを実施し、年次ごとの履修可能な科目や個々の履修状況に関して全体指導および個別指導を行っている。3年次では、次年度に実施する教育実習の受け入れ校の開拓および内諾にむけた全体指導、個別指導を行っている。

毎年10月下旬に中学校教諭免許状取得志望者にむけて、介護等体験に関する説明会を実施し、次年度以降の体験にむけたスケジュール調整と準備を明示している。

教職課程の年次ごとの履修状況や内容を可視化できるように、「履修カルテ」を配布し、学生が Semester ごとに履修科目について記入を行い、自身の学びの過程を確認できるようにしている。

〔長所・特色〕

教職課程のオリエンテーションおよび履修に関する指導は、教職課程専任教員と事務局教学グループ教務チームが協働・連携して効率的に行っている。学生の履修状況および専攻による履修計画上の個別的な指導、種々の申請手続き等に関して、教員および事務職員の双方が情報を共有しながら学生の個別的な指導・対応を行っている。

〔取り組み上の課題〕

学部1年次における教職課程の履修登録者数は、例年、学年数の7割以上を占めている。しかしながら、2年次以降になると、個々の演奏活動や、専攻実技および必修である専門科目履修との両立が難しくなり、リタイアせざるを得ない学生も少なくない。

2017年に大学院も開設されたことから、大学入学当初から大学院進学を視野に入れている学生に対して、修士課程修了までの6年間で免許を取得するようなモデルも構築していく必要があるかもしれない。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・桐朋学園大学 履修案内 2024
- ・令和6年度 オリエンテーション 教職課程 配布資料

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学の進路指導は、キャリア支援センターが担っているが、このキャリア支援センターと協働して、毎年1月あるいは2月に、教職志望者向けの対策講座を実施している。

教職関連のキャリア支援は、学年に関係なく教職課程の専任教員とキャリア支援センター職員が中心となって教職志望者への個別指導を行っている。学部4年次において、各都道府県等の教員採用試験を受験する学生数は多くはないが、志望する都道府県の過去問題等の情報を提供しながら、小論文、模擬授業や面接などの二次試験対策については、学生からの要望があれば、マンツーマンで指導を行っている。

〔長所・特色〕

キャリア支援センターと協働して、現職教員や教育現場で働いている卒業生を招聘した教職教養講座を開催し、学校教育における現状を学生が掴める機会を設けている。その一方で、教職というキャリアに特化しすぎず、アウトリーチ講座も開催し、音楽教育の専門性をいかしたキャリア形成を目的として、将来の選択肢が広がるように配慮している。

〔取り組み上の課題〕

教職課程の履修は、本学の卒業要件とはなっていないことや、学生数に対する教職志望者は少ないことから、教職関連のキャリア講座を年間通じて企画・実施することが難しい。日常的な教職志望者への支援は、教職課程の専任教員や非常勤講師が個別的に対応しているのが現状である。

教職科目を必要な単位数履修すれば、学部卒業時に高等学校教諭一種免許状（音楽）と（あるいは）中学校教諭一種免許状（音楽）、大学院修了時に高等学校教諭専修免許状（音楽）と（あるいは）中学校教諭専修免許状（音楽）が取得可能だが、教職課程の履修開始時から教職に就くという本人の意思がまったくみられない学生も散見される。学びの過程での進路変更は十分に考えられるが、教職が学生本人の将来像に適しているのかを、年次ごとに、全学的な履修指導とキャリア支援のなかで行っていく必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・ 桐朋学園大学 キャリア支援センター ホームページ
（ <http://toho-career.com/> ）

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

本学で重視している「ソルフェージュ」・「音楽理論」・「音楽史及びアンサンブル」の力を大切にしながら、我が国の音楽教育を牽引する人材の育成を目指している。

また、年度始めに「履修カルテ」に記入を行い、履修計画を明確化出来るようにしている。

〔長所・特色〕

教職課程のカリキュラムの編成・実施は、教育科目運営委員会と事務局教学グループ教務チームが連携して組織的・効率的に行われている。原則として1・2時間目を開講することにより、履修計画が立てやすいように配慮されている。

また、学部の教職実践演習については、各クラス30人以下で履修出来るようにクラス編成を行い、個々の発表を重視した、少人数体制の授業を実現している。

〔取り組み上の課題〕

教員免許状取得に必要ないくつかの科目を集中講義にて実施している。毎年、後期授業開講前の9月上旬～中旬にかけて開講しているが、同時期に音楽関係の主要なコンクールが集中している為、履修を諦めてしまうケースも見受けられる。

教職課程では、「教職に関する科目」と「教科（音楽）に関する科目」が1年次から同時並行的に進行していくが、その履修の過程が段階的なものであることを「カリキュラムマップ」として学生に明示していくことが必要である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・ 桐朋学園大学 履修案内 2024
- ・ 桐朋学園大学ホームページより「情報公開：教員養成の状況」
(<https://www.tohomusic.ac.jp/college/about/disclosure/kyoinyosei/>)

基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域の連携

〔現状説明〕

学部4年次の教育実習では、学校側の要請がある場合は、実習生の研究授業日に専任教員が訪問して研究授業を参観し、終了後に実習生、実習指導教員との研究協議会に参加している。教育実習校への訪問は、学校教育現場に求められる教師像を本学の教員が知る貴重な機会となっている。

キャリア支援センターでは、学生が地域の学校や施設等で演奏活動を行う機会の一部を支援している。

〔長所・特色〕

本学では、例年、地域の教育機関や医療施設等からの音楽アウトリーチ活動の要請を受けいれている。キャリア支援センターではアウトリーチ活動を行う学生への事前指導の時間を設定し、学校教育における音楽の授業とは異なったアプローチ法をスタッフと教員が連携しながら支援している。

〔取り組み上の課題〕

教育実習校への訪問は、学校教育現場に求められる教師像を本学の教員が知る貴重な機会となっているが、教育現場における指導の成果を一部の教員だけでなく、教職にかかわる教職員に広く伝えられるようにしていきたい。

本学が学生の実践的指導力の育成として行っている取り組みは、主に演奏活動となっている。地域の学校の部活動、課外活動における音楽の指導など、本学の学生と教員が協働・連携して行える取り組みを考えていきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

・ 桐朋学園大学 キャリア支援センター ホームページ

(<http://toho-career.com/>)

Ⅲ 総合評価

自己点検・評価の結果、本学の教職課程について、以下のように評価を行った。

〔特長〕

国内外で活躍する音楽家をはじめとした教員らの指導のもと、音楽大学の教職課程として、音楽に関する高度な専門性と知識・技術を備えた教員の育成を行うことができている。

教職課程を履修することで、音楽の高い専門性を身に付けながら、より幅広いキャリア形成のありかたを学生に示すことができている。

〔今後の課題〕

教職をセカンドキャリアの一部とみなし、教職の履修目的が明確ではない学生が一定数いる。教職が学生本人の将来像に適しているのかを、全学的な履修指導とキャリア支援のなかで行っていく必要がある。

本学の教職課程にある教科指導法の授業など、教育現場の実態に即した授業を展開するため、地域との連携を深めていく必要がある。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学の「教職課程自己点検・評価報告書」は、以下のプロセスを経て作成、公表している。

1. 教育科目運営委員会が（「教職課程自己点検・評価報告書」作成の手引きを参考にして）、点検評価の実施と報告書作成の手順について確認を行う。
2. 教職課程専任教員および事務局教学グループ教務チーム職員との協働・連携により、自己点検・評価の実施および原案の作成を行う。
3. 自己点検・評価委員会での審議および承認を経て、本学ホームページに公表する。

V 現況基礎データ一覧

(令和6年5月1日現在)

法人名	学校法人 桐朋学園				
大学・学部名	桐朋学園大学 音楽学部 音楽学科 桐朋学園大学 大学院 音楽研究科				
1 卒業者数、教員免許状取得者数、就職者数等					
	学部		大学院		
① 昨年度卒業者数	155 名		58 名		
② ①のうち就職者数 (企業、公務員等を含む)	64 名		43 名		
③ ②のうち、教員免許状取得者数 (複数免許状取得者も 1 と数える)	40 名		27 名		
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)	5 名		2 名		
④のうち、正規採用者数	2 名		0 名		
④のうち、臨時的任用者数	3 名		2 名		
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 (非常勤講師)
教員数 (学部)	26 名	13 名	2 名	0 名	289 名
教員数 (大学院)	16 名	13 名	1 名	0 名	66 名